

帯広市市民防災・減災懇話会（第4回）議事録【要旨】

日 時／平成24年9月21日（金）18:00～19:30

場 所／帯広市役所 10階第5A会議室

1. 開会

2. 座長挨拶

3. 事務局報告

委員17名中8名が出席、2名が「市民防災・減災懇話会検討シート」を事前に提出しており会議が成立していることを報告。

4. 議事

（1）前回検討事項「災害時要援護者の支援について」の振り返り（岡田事務局次長）

前回検討した内容についての振り返りを行った。

（2）検討事項3「地域における平時、災害時の活動や連携について」の現状と課題（岡田事務局次長）

本日の議題である検討事項3「地域における平時、災害時の活動や連携について」の現状と課題について、「市民防災・減災懇話会検討シート」に従い内容説明を行った。

（3）意見交換

各委員から検討事項3「地域における平時、災害時の活動や連携について」の現状と課題について、意見交換を行った。

①A委員

地域の連携は難しい問題。それぞれの立場で防災に対する考え方は異なるため、防災訓練などの活動を通してながら共通の認識に立てるようにする。

②B委員

連合町内会がリーダーシップを取り、地域をまとめていく。

女性が防災活動へ参画することは重要であり、女性団体と連携を取りながら女性がリーダーとしても活動できるような体制づくりが必要である。

③C委員

災害ボランティアセンターはおもに災害発生時に組織されるが、平常時においても常設されている組織がいくつかあり、ボランティアの養成や市民向け防災教育など防災活動を行っている優良事例がある。帯広市も組織化に向け運営を担う人材の確保及び育成について検討してはどうか。

女性が防災活動へ参画するためには、女性の役員など人材の発掘をする必要がある。

④D委員

連合町内会長や単位町内会長に防災意識の高いリーダーが少ない。

自分の地域の防災マップを作成し、地域の企業と連携しながら、地域づくりを行う。

若い人たちや女性への防災意識の普及啓発も必要である。

⑤ E 委員

各団体の意見を尊重しながら、地域の中核である連合町内会が主体的に防災に対して取り組みを行うことが重要であり、統一のとれた指導力のある組織体制が望まれる。

また、女性の力を活用して、防災体制を構築する。

⑥ F 委員

団体間の連携だけでは不十分であり、家庭での防災への意識づくりや近隣の家族構成を把握する。

⑦ G 委員

地域の連携を図ることも重要だが、避難場所の検討、再確認もしっかりと行うべき。

⑧ H 委員

連携が必要と思われる団体から防災リーダーのような核となる人材を選出し、災害時に適切な対応ができるよう育成を行ってはどうか。

⑨ I 委員

連合町内会や単位町内会の防災担当で組織する団体を立ち上げ、様々な団体の連携を行うとよい。

また、女性を防災活動の参画に促すためには、連合町内会や単位町内会の防災担当者に女性を起用する工夫が必要である。町内会女性部の中に防災担当を設置してもよいと思う。

5. その他

次回懇話会は、10月22日（月）18時より帯広市役所10階第6会議室にて行う。